

道徳科学習指導案

主題名「しんせつにするために」〔学指要領：B 親切、思いやり〕

令和7年12月2日（火） 第5校時 1年1組教室

授業の視点

ぶらんこの順番待ちの場面において、主人公と友だちの気持ちを考え、役割演技をする活動を通して、親切にするために大切なことについて話し合ったことは、身近な人に対して親切にしていこうとする道徳的実践意欲と態度を養うことに有効であったか。

I 主題設定の理由

1 価値観

本主題は、学習指導要領の「親切、思いやり」の内容項目のうち、身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考える学習である。

児童が身近な人たちと望ましい人間関係を築いていくためには、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである、思いやりをもつことが大切である。思いやりの気持ちは、相手の立場に立って励ましたり、援助をしたり、温かく見守ったりするような親切な行為として表れることが期待される。親切に接することは、相手にとって嬉しいだけでなく、そのような行為をとった自分にとっても心地よいものであり、自他ともにあたたかな気持ちで関係を深める事ができる。

しかし、この時期の児童は自己中心性が強く、自らの利益や欲望を優先し、思いやりのある行動を実行できない場合もしばしば見られる。思いやりは、その思いを親切な行動で表さないと相手には伝わらない。親切な行為をすることのよさや大切さについて考えることは、身近な人に対して進んで親切にしようとする道徳的実践意欲と態度の育成につながると考え、本主題を設定した。これは、今後、「誰に対しても思いやりの心をもつこと」に発展する。また、第3学年及び第4学年においては、「相互理解、寛容の態度」にもつながる。

2 児童観

削除

3 教材観 教材名「ノンタンぶらんこのせて」（出典：作 キヨノ サチコ 出版社 偕成社）

教材の内容及び価値は、以下のとおりである。

うさぎが、ぶらんこに乗っているノンタンの所にやって来て、「ノンタン、ぶらんこのせて。」と言うが、ノンタンは「だめだめ、まだぼく、ちょっぴりしかのってないんだもん。」と言って順番を替わってくれない。くま、ぶた、たぬきが来ても、なかなか順番を替わってくれないので、皆怒り出して帰ろうとしてしまう。すると、ノンタンはあわてて「10までかぞえたら、じゅんぱんかわるよ。」と言う。しかし、ノンタンはなかなか10まで数えることができない。また、皆が怒り出すが、ノンタンは、「ぼくねほんとは、1・2・3、までしかかぞえられないの。」と言う。すると、皆が10まで数えてくれて、順番にぶらんこに乗って遊べる、という内容である。

本教材は、互いの利害がからむ日常場面で、ノンタンの自分を優先してしまう気持ちや親切な行為の難しさに共感できる内容である。ぶらんこで遊びたいのに遊べないうさぎたちや、自己中心的な言動をし、うさぎたちから「もう遊ばない。」と言われてしまうノンタンの姿から、児童は相手の立場やそのときの状況を考えずに行動することについての問題意識を高めることができる。ノンタンは自分のことだけを考えてぶらんこを絶対に譲ろうとしないが、ぶらんこに乗ったばかりのノンタンにも思いがある。一方からの見方だけではなく双方の立場になって考えてみることで、それぞれの思いや言い分があることに気付き、相手の気持ちを考えた上でこれからどうすればよいかを考える展開になり得ると考える。ノンタンとうさぎたち双方の心情や行為について考え、どうしたらよいかについて話し合うことを通して、親切な行為の難しさに共感するとともに親切な行為が喜びや安心感をもたらすものであると実感できる教材である。

4 人権教育との関わり

小中高等学校における暴力行為の発生件数やいじめの認知件数は依然として全国的に多く、憂慮すべき状況が続いている。学校ではいじめの未然防止や早期発見、早期対応のための取組が進められている。いじめが生じる原因や背景は様々であるが、その根底には、他人に対する思いやりやいたわりの希薄さがあると思われる。

低学年段階では、発達の特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。身近にいる人に広く目を向けて温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。

そこで本時においては、ぶらんこの順番待ちの場面において、自分の気持ちを優先して対立してしまうノンタンとうさぎの気持ちや、自分だったらどんな言葉をかけるかを考えさせることを通して、相手のことを考え優しく接することが大切であることに気付かせたい。

5 校内研修との関わり

本年度の本校の研修主題は、「自他を大切にし、よりよい人間関係を築こうとする児童の育成」であり、副主題は、「お互いを思いやる活動を通して」である。

本校の児童の実態を踏まえて、各教科等の授業においては、自分の意見も他の人の意見も大切にするといった価値・態度を身に付けることができるように、「お互いを思いやる活動」を設定している。学習の目的に応じてペア、グループ、全体協議による双方向コミュニケーションで考えを伝え学び合う活動である。

低学年段階においては、思いやる活動を通して、自分の考えや思いをもち、自分の大切さや他の人の大切さに気付くことができる児童の育成を目指している。そこで、思いやる活動として、相手意識をもった分かりやすい話し方を「思いやりの話し方」、相手の考えや意見を受け止め、よさを見いだそうとする聞き方を「思いやりの聞き方」として、学習の交流場面で実践している。

本授業では、児童同士の対立を児童自身が解決していくことや自他を尊重することを体験的に学ぶことができるようにするために、「ちゅうしんかつどう」において役割演技を取り入れて思いやる活動をする。児童が考えた解決方法を基に役割演技をして、対立した場面の解決方法を体験することは、人権教育で育てたい能力・態度の育成に関わる。特に、立場の違いを認めて話し合う中で、児童自身が他者の人権を尊重し、互いを思いやり親切にすることの大切さについて考えることは、自他を大切にし、よりよい人間関係を築こうとする児童の育成に寄与すると考えた。

II 本時の学習

1 **ねらい** ぶらんこの順番待ちの場面において、主人公と友だちの双方の気持ちについて考え、役割演技をする活動を通して、相手の気持ちを考えて親切にすることが、自分にとっても相手にとっても心地よいものであることに気づき、身近な人に対して温かい心をもって、親切にしていこうとする道徳的实践意欲と態度を養う。

2 人権教育の視点

- 感性：自分だけでなく他の人もぶらんこに乗りたい気持ちに共感する。
- 実践力：互いの気持ちを認め、思いやりをもって親切にしようとする。

3 展開 【あみかけ＝思いやる活動】

| 主な活動 | 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童の意識【S】 | ○指導上の留意点 ◆目指す児童の姿 (観点) |
|-----------|-------------------------------------|---|
| 1 | 道徳的価値について問題意識をもつ | ○本時のねらいとする道徳的価値への方向付けができるように、「思いやりの木」をTVに映し出して生活を振り返り、いつでも思いやりをもって親切にすることの能否を問いかける。 ○めあてをつかませるとともに、分かっているも |
| ウォーミングアップ | ○ミニゲームをして、雰囲気にあたためる。(1分) | |
| めあて | | |

| | |
|--|--|
| <p>○学校生活を振り返り、課題を見つけ、めあてをつかむ。(4分)</p> <p><めあて> しんせつにするためにたいせつなことはなんだろう。</p> <p>S:いつでもしんせつにできるようになりたいな。</p> | <p>親切にできていないこともあるということを見習うことができるようにする。</p> |
| <p>2 教材文の範読を聞く</p> <p>3 教材を通して道徳的価値についての考えをもち交流する</p> <p>○問題点に気づき、それぞれの立場になって考え交流する。(10分)</p> <p>どうしてけんかになったのかな。</p> <p>S:ノンタンがぶらんこを独り占めしてしまったから。 S:ぶらんこをかしてあげないから。</p> | <p>○学習課題への意識を高めるため、ノンタンは最終的にぶらんこをかしていることを押さえ、ノンタンとうさぎたちはお互いに親切にできているかを問いかける。</p> <p>○「思いやりメーター」で思いやりを示すことで、どちらも親切にできていないことを確認する。</p> |
| <p>ちゅうしんかつどう</p> <p>○学習課題の解決に向けて話し合う。(20分)</p> <p>◎「ノンタンノンタンぶらんこのせて」と言っとうさぎと言われたノンタン。この後に続く言葉を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで考えてワークシートに記入する。 ・ペアでロールプレイをする。 ・全体でロールプレイをする。 <p>S:ノンタン…「もう少し待ってね。今乗ったばかりだから。」「分かった、あと○回こいだらかわるね。」 S:うさぎたち…「今乗ったばかりなんだね。わかった。もう少し待ってね。」「どれくらい待ったらかわってくれる?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェアリングをする <p>○共感できる意見にマグネットを貼り、感想や行動選択の理由を発表する。 S:どうぞってゆずるとみんなが気持ちいい。親切だね。 S:顔を見てうなずきながら聞いてくれてうれしい。 S:ノンタンに「ずるい」って強く言わないでやさしく言うと嫌な気持ちにならないな。</p> <p>◇ノンタンは「だめだめ、ちょっぴりしかのってないんだもん。」と言っているよ。みんなは言わないのかな。</p> | <p>○どちらにもぶらんこに乗りたい気持ちがあることを押さえ、それぞれの立場になって自分なら何と言うかを問いかける。</p> <p>○「思いやりの話し方・聞き方」のカードを提示し、それを使ってペアで台詞を考えたり話し合ったりするよう促す。</p> <p>○児童の考えを丁寧に受け止め、共感したり全体に投げかけたりして、多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>○相手の気持ちに配慮した話し方や行動について考えられるようにするために、見ていた児童の感想、演者の気持ちやその行動をとった理由の順で聞いていく。</p> <p>○TVに人物の表情とセリフの挿絵を映し、どちらも自分のことしか考えていなかったことに気付くことができるようにする。</p> <p>○自分が好きなことをしたいときは、親切にすることが難しいことがあることを捉えることができるようにする。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>S : だめって言ったら、うさぎが嫌な気持ちになる。 S : みんなも乗りたいから、順番にゆずってあげたほうがいいから。</p> | |
| <p>◇ノントンの言い方とみんなの言い方は、何が違ったのかな。</p> <p>S : ノントンはぶらんこに乗りながら相手の顔を見ないで言っている。 S : 相手が嫌な気持ちにならないようにやさしく言っている。 S : みんながいい気持ち。うれしい。</p> | <p>○児童の発言を大切にしながら、親切にするためのポイントについて確認、整理しながら板書する。 ○「思いやりメーター」で思いやりを示すことで、どちらも親切にできたことを確認する。 ○友達に親切にすることのよさについて考えられるようにする。</p> |
| <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p> <p>○親切にするために大切なことについてまとめる。(5分)</p> <p>親切にするために、大切なことはなんだろう。</p> <p>S : 友達の気持ちも考える。 S : やさしく言われると自分も相手もうれしいね。</p> | <p>○板書を見ながら、親切にできていない場面とできている場面の違いを考えることで、お互いに相手の気持ちを考えることが大切であることに気付くことができるようにする。 ○どちらの思いも大切にしたいという児童の気持ちを引き出す。</p> |
| <p>5 本時に扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする</p> <p>ふりかえり</p> <p>○自分の気持ちも友達の気持ちも大切にできた経験について振り返りをする。(5分)</p> <p>S : 並ぼうとした時、「どうぞ」ってゆずってもらってうれしかったな。 S : 係の仕事を友達と協力してできているな。 S : 友達が困っているとき助けているな。</p> | <p>○相手のことを考えた言葉がけや行動の仕方を頭の中でイメージするよう促し、実践に移せるようにする。 ○授業で学んだことが生活場面で使えたときには賞賛していくことで、一般化を促す。</p> |

| |
|---|
| <p>◆評価の視点</p> <p>ワークシートの記述や発言内容から、「身近な人に親切にするために大切なことについて、多面的・多角的に考えているか」を評価する。</p> <p>ワークシートの記述や発言内容から、「身近な人に親切にするために大切なことについて、自分自身との関わりの中で考えているか」を評価する。</p> |
|---|